

雨が降らない梅雨を象徴するように、もう蟬の鳴き声が賑やかになっています。開墾した裏山や裏の畑で一番大きく伸びているのは、なんと ひまわりです。野菜達を追い越して、チップの道の両側で、見事に100本以上のひまわりたちが、整然と背比べをしている光景は見事です。野菜の中で、追走して頑張っているのは、カボチャと大豆です。やはり乾燥に強いたくましいものが頑張っています。私たちも、ひまわりやカボチャなどからエネルギーをもらい、たくましく生きていきたいものです。

この暑さの中、今大地で一番人気のスポットは、この森です。子ども達の働きの下で、あつという間に森の整備が終わり、美しい歩道や散歩道も出来て、魔女の森に見事に繋がり、素敵森になりました。太いカラ松を伐採した時、それが偶然土手に倒れ、それが3匹のやぎののらがらどんのような橋になったので、そのまま残しておいたのが、今、大人気の丸太橋です。子ども達は、ここに群れて遊び、その周辺はふかふかの腐葉土ですので、砂場ならず腐葉土場となり、ここでままごと遊びに夢中です。

更に、この森の目玉としてナラの大木が見事に群生している場所に以前から目をつけていたのですが、(大きな日陰を作り、雨から守ってくれる)ここにテーブルを運び、絶好の涼しいダイニングになりました。こうなれば、ここにキッチンが欲しくなるのが当たり前。重さ100キロを超える昔のタイル張りの竈を、重機で運び込み、ステンレスシンクを板で囲い、60ℓの水道ホースを埋設して、野外キッチンが完成。見事なキャンプ場になり、この夏は、大活躍してくれそうです。

水さえあれば、無敵!! 流しそうめんもこの涼しい場所に作り、一昨日初流しそうめん。傾斜といい場所といい涼しさといい、最高。恐ろしいほどの食欲で、持参したそうめんはすぐに完売。次回は、もっと必要ですね。

そんな、エネルギー溢れる裏山に今日も、子ども達は突進しています。



【青山家の家訓】

- ①高い山に登らせよ
- ②雨の日でも迎えに行くな
- ③遠くても歩かせよ
- ④電車の中では立たせよ
- ⑤家の用事はどンドンやらせよ、探してでもやらせよ

グスタフ・フォフ というドイツ人の「日本の父へ」という本に書かれていた言葉です。(この童シリーズに、過去何度も書いてきましたが)要するに、甘ったれた子どもを育てるな という姿勢です。たぶん、女性や友達親子には、厳しいと理解しにくいちょっとアレルギーを持つ雰囲気か漂うことなのでしょうね。(あなげんの東城さんの子育て持論も共通項があって嬉しかったですね)

この厳しい姿勢を青ちゃんは基本的に貫きながら、ノンタン母さんは、うまい絶妙な間合いと才覚で甘えさせて(甘やかすのではなく)、うまくやってきたような気がします。4人の子ども達は、嬉しいことに世に言う高学歴のエリート(エリートの国会議員達が世を賑わせていますが)ではないですが、自律と自立をして、それぞれの大好きな道を探求しながら、親を頼らずに、うまい距離を保ちながら生きています。「金・将来性・世間体」を人生職業選択のキーワードにする風潮の中で、「心・一度の人生・世界地球の平和」などを それにしているようです。

①小さい頃から、子ども達をおんぶして、家族で山に登ってきました。長男が5年生頃には、末っ子を長男がおんぶして、厳しい磐梯山に登った事はいい思い出です。それぞれが、大きな荷物を背負ってれば、子どもは、「おんぶ」と言わないのは当たり前です。「親の背を見やわかる」です。厳しい山は、おちゃらけで登れず、大人も真剣勝負であり、特に父親は家族全員の命と生命を繋ぐテント類を背負います。母親は、山に必要な穏やかで冷静な心をサポートします。地道な積み重ねと忍耐そして大きな達成感を贈呈してくれます。まさに自律です。

②どうせ、迎えに来てくれないし、何とか帰るしかないか。走れば濡れる時間も短縮。バス停や軒先で雨宿りしながら帰るか。何とか工夫するしかないだろう。突然の天候への対応。天気予想と対策。濡れない最低限の工夫。自然対応。他人に甘えず、自分で何とかする努力と度胸。時折、何も言わずに駅で迎えに来ている時のうれしさ。

③山も、同じ山頂をめざすのに、ロープウェイで登ると歩いて登るとの違い。その過程で見る光景、体験、アクシデント、気づき。近くでもタクシーに乗る(青山家はタクシーに乗ったことは、たぶん2,3回か。疲れているから自分でお金を出して乗ったこと) 電車で一駅でも電車やバスを使うなんてことはほとんどありません。歩く過程の魅力、勤勉、体力、節約、忍耐、根性が身につきます。

④年配の人には席を譲ろう。子どもよりも親の方が年配!! 子どもをスポーツ教室やクラブや塾に入れて、体幹や平衡感覚や体力、丈夫な身体や根性を養うのなら、電車の中は、絶好のフィールド。バランス感覚、重心の低さ、踏ん張る力、忍耐と根性、そして、席を譲るモラルが身につくし、そんな子どもや親は、私はかっこいいと思います。

⑤家のお手伝いはいいから、優先順位はまず勉強や部活動。「誰に飯を食わせてもらっているんだ」「家庭で一番の王様お姫様は誰?」「家は、農家でもなくアパート暮らしだから、仕事はありませし、子どもに頼む用事ありません」皿洗い、皿ふき、片付け、ゴミ捨て、掃除、暮らしですから、探せばどんな事でもあります。青山家では、皿洗い、皿ふき、食器片付けなどは、高校生位まで、每晚兄弟でじゃんけんで役割決定。テストの日と誕生日だけは免除でした。大きくなった今でも、自然とやってくれます。ずくのある人間。家庭の役割の認識。感謝。対等な意識。勤勉。

子どものためにやらせようではなく、まず、親が大人がこれを日頃の暮らしで実行出来るか。掃除などの暮らしの始末も、お金を出して下請けに出すご時世、より楽なサービスを受ける事が豊かさの象徴などともてはやされる時代は、人間にとってはどんなものでしょう。ロボット、コンピューターの時代で、ますます今の人間的な単純作業、労働は、なくなっていくと言われています。だから、そのためにスキルを磨かなくては と言うのが今のご時世です。身体ではなく、頭脳労働、知性労働の時代と言うことです。

先日、どこの雑誌か忘れてましたが、今、どこの職場や労働環境や役所に行ってみると仕事光景は、ほとんど、苦虫をかみつぶした能面の人たちが、黙って四角い画面を覗いているだけ。休憩時間は、更に小さいスマホを見ているだけ。よって、子ども達もこれらの環境、光景を見て育つ訳ですね。人間の脳のキャパは決まっているそうです。新しいスキルを脳に身につけたら、それまでの何かが吐き出されるのです。原始の人間が吐き出されなければいいのですが。

